

令和7年6月19日

令和7年度 学校関係者評価報告書

学校法人 青照学舎

熊本駅前看護リハビリテーション学院

学校関係者評価委員会

1 はじめに

学校法人青照学舎が運営する熊本駅前看護リハビリテーション学院の学校関係者評価委員会は、学校評価に関する関連法令に基づき、令和6年度の自己評価報告を基本とした学校関係者評価を実施いたしましたので、ここにご報告します。

学校関係者評価は、学校自らが選任した教育関係者、業界関係者、卒業生、保護者等の学校関係者が、学校自らが実施した「自己評価」の結果について評価することを基本として行う評価で、ホームページ等に公表いたします。

本校といたしましては、学校関係者評価の結果を踏まえ、今後も学校関係者と連携・協力し、学校運営の改善・強化、教育の質の向上、教職員の資質・能力の向上を図って参ります。

2 学校関係者評価について

(1) 目的

学校関係者評価は、自己評価結果について、学校外の関係者による評価を行い、自己評価結果の客観性・透明性を高め、また、生徒・卒業生、関係業界、職能団体、高等学校、保護者・地域住民など、専修学校と密接に関係する者の理解促進や連携協力による学校運営の改善等を図ること等を目的とします。

(2) 評価のポイント

- ① 自己評価結果の内容が適切か。
- ② 自己評価結果を踏まえた今後の改善方策は適切か。
- ③ 学校の重点目標や自己評価項目等が適切か。
- ④ 学校運営の改善に向けた実際の取組が適切か。

(3) 評価期間

2024年4月1日～2025年3月31日

(4) 評価結果の公表

- ① 評価結果や今後の改善方策等を取りまとめ公表します。
- ② 評価結果は、次年度の学校運営や教育活動等について具体的に改善を図ります。

3 学校関係者評価委員会について

(1) 活動内容

- ① 自己評価結果の評価
- ② 学校関係者評価委員会の開催
- ③ 改善意見、助言
- ④ 施設等の確認

(2) 学校関係者評価委員会の委員、事務局

① 学校関係者評価委員 10名

委員氏名	所属名	役職名
山口 里美	公益社団法人 熊本県理学療法士協会	理事
牛島 由紀雄	一般社団法人 熊本県作業療法士会	会長
牛島 敏之	一般社団法人 熊本県言語聴覚士会	理事
波多埜 克宜	医療法人 相生会 にしくまもと病院 セラピスト課	課長
田尻 威雅	特定医療法人 富尾会 桜が丘病院 作業療法室	室長
中村 真一郎	医療法人 清和会 水前寺とうや病院	言語聴覚士
三島 潤子	独立行政法人 国立病院機構 熊本再春医療センター	看護部長
岩下 猛	熊本県立熊本農業高等学校	副校長
満崎 達郎	熊本駅前看護リハビリテーション学院後援会	会長
有田 和広	熊本駅前看護リハビリテーション学院同窓会	会長

② 学校関係者評価事務局（教職員） 12名

氏名	所属名	役職名
藤岡 正導	熊本駅前看護リハビリテーション学院	学校長
高野 茂	熊本駅前看護リハビリテーション学院	学校長代理
川上 勝美	熊本駅前看護リハビリテーション学院	法人事務局長
松本 弥	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教頭
西本 守	熊本駅前看護リハビリテーション学院	教頭
白石 正行	熊本駅前看護リハビリテーション学院	事務長
岡田 玉子	熊本駅前看護リハビリテーション学院	看護学科教務部長
楠本 敏文	熊本駅前看護リハビリテーション学院	リハビリテーション学科教務部長
大石 宝予	熊本駅前看護リハビリテーション学院	広報部長
栗野 博子	熊本駅前看護リハビリテーション学院	理学療法学科長
竹本 舞	熊本駅前看護リハビリテーション学院	作業療法学科長
篠原 麻代	熊本駅前看護リハビリテーション学院	言語聴覚療法学科長

(3) 評価項目

- 基準1 教育理念・目的・育成人材像
- 基準2 学校運営
- 基準3 教育活動
- 基準4 学修成果
- 基準5 生徒支援
- 基準6 教育環境
- 基準7 生徒の募集と受入れ
- 基準8 財務
- 基準9 法令等の遵守
- 基準10 社会貢献・地域貢献

(4) 学校関係者評価委員会の開催状況

- ① 日 時 : 令和7年6月16日(月) 13:55~16:00
- ② 場 所 : 熊本県熊本市西区春日2丁目1-15
熊本駅前看護リハビリテーション学院 看護棟6階会議室
- ③ 出席者 : 学校関係者評価委員 7名
学校関係者評価事務局10名
- ④ 議題・内容 : 開会、事務局より挨拶
委員及び事務局職員紹介
職業実践専門課程に関する説明
学校概要説明(各学科別)
令和6年度自己評価結果についての説明
質疑・意見交換、閉会

4 自己評価結果に対する委員の意見

学校関係者評価委員会での意見を各項目毎(基準毎)にまとめた。

5 評価項目毎の状況

評価項目の基準1~基準10までの状況は次のとおりです。

基準Ⅰ 教育理念・目的・育成人材像

教育理念は開校当初より明文化され、教職員と生徒・保護者に学生便覧等で周知されている。本校は、教育基本法に則り、専修学校の専門課程として、職業に必要な能力及び創造的能力を育成し、また社会人としての教養の向上を図り、地域に貢献することを目的としている。また、育成人材像については、学科毎に明確に定められており、それを実現するための具体的な計画・方法をカリキュラムやシラバスとして定めるとともに、関連の外部機関との協力・連携のもと、現場のニーズに即応できる人材の育成ができるよう見直しを行っている。なお、学校の特色については、総合パンフレットやホームページで社会に広く公表している。

【教育の理念】

- ・愛は医の道の出発点である。愛の心を持って病める人の心と身体を癒そう
- ・和は社会人としての道の基本である。和の心は、人・社会・国に平和を与える
- ・「愛と和」の心を持ちこの学舎で共に学び医療にたずさわる者の道を終生進もう

【教育の方針】

- ・本校はリハビリテーション医療を通じて、医療・保健・福祉の分野に広く貢献できる理学療法士・作業療法士・言語聴覚士を養成する。
- ・本校は、学校教育法に基づき、医療関係技術者として必要な知識及び技術を習得させると共に多様化する社会に対応できる、深い教養、豊かな人間性、高い倫理観を備え、社会における医療、保健、福祉の分野に貢献できる、看護師を養成する。

【本校の沿革】

- ・平成20年（2008年）4月に理学療法学科(定員80名)、作業療法学科(定員40名)、4年課程の昼間部で開学した。
- ・平成21年（2009年）4月に看護学科（定員80名）を新設し、校名を熊本駅前リハビリテーション専門学校から熊本駅前看護リハビリテーション学院に変更する。
- ・平成27年（2015年）及び平成28年（2016年）2月に文部科学大臣から職業実践専門課程の認定を受ける。
- ・令和2年度（2020年）に理学療法学科の定員を40名に変更し、新たに言語聴覚療法学科（定員40名）を新設した。
- ・現在まで、卒業生は4学科で1, 866名に上り、全国の医療機関や福祉施設等各方面で活躍している。

学校関係者評価委員会の意見・提言

【委員】 特色ある教育活動の取り組みについては外部講師による特別講義を実施されているとの事、特に技術面を向上させる教育が必要ではないか？

【委員】 社会のニーズを踏まえた将来構想については、いろいろと議論があっているかと思うがAIの普及に負けない人間味あふれる療法士の育成を期待している。

基準2 学校運営

運営方針 事業計画 運営組織 人事・給与制度

意思決定機能 情報システム

本校は、社会に信頼される学校であり続けるために開かれた学校づくりやコンプライアンスの徹底、人権等に配慮した取り組みに努めている。また、事業計画に基づいて、計画的かつ迅速な学校運営に努めている。

学校運営方針や事業計画は事業計画書で定めており、隔週に開催する運営委員会で進捗状況を確認している。各学科や広報部において毎年、事業計画を策定しており、事業計画に基づいた運営を行っている。また、事業計画については、職員会議や各教務会議等を通じて、職員間で共有している。

事業計画や予算の執行状況についても各委員会で把握や見直しを行うことができている。運営組織については、理事会、評議員会、教務部、事務部等の運営組織を整備し、その連携を図るための会議も適切に開催し運営することができている。

給与支給等に関する基準・規程を整備し、運用することができているが、人材の確保が喫緊の課題であり、多様な媒体を利用し、積極的に採用活動を行っている。既存の人事考課制度についての明確な基準や運用については定期的な見直しを検討していく必要がある。

学校の理念を踏まえた職員個々の目標設定を行い、達成度に応じて評価を行っていくなどの取り組みも参考となる。意思決定機能は学校運営委員会や教務会議等において効果的に確立され機能している。決裁書については稟議の迅速化を図るための事前協議が必要である。メリット・デメリットを含めて、それぞれの職場に適したシステムを検討している。

生徒の個人情報や成績情報については成績管理システムを整備し、生活指導において適切に管理、活用している。高等教育の修学支援新制度が令和2年度に始まり、今後、生徒の成績情報等の適切な管理・運用が必要となっており、業務の効率化が求められている。

学校関係者評価委員会の意見・提言

【委員】人事・給与制度の評定について、職員の人材が不足しているのか、職員に関

する人事考課制度が運用されていないということでの2という評価になっているのか？

→人事考課制度というより、人材不足で募集してもなかなか集まらないという現状での評価と考える。

【事務局】医療の現場では採用が困難な状況かお聞きしたい。

【委員】セラピストに関しては常時募集をしている。早めに退職の意向を相談するよう伝

えているが、いろいろな事情もあり、急に退職の意向が出ることもある。その際タイミングがあれば結構アクセスはあるが、無い時は全く無い。できるだけ辞めない環境作りをしているが、多職種の現場ということもあり人間関係で悩む職員も多い。人海戦術、ホームページやSNSを駆使して募集しているが、何が正解かわからない状況でもある。

【委員】人が全然足りていないが、取ってくれない状況。やはり人件費のペイが急性期

病院になってくると外科手術等に重きをおかれ、リハビリスタッフがどれだけ頑張っても売り上げ的には病院全体の中では低い。そのためこちらの人数を増やすよりも他の職種を増やすという方針を数年前に明確に打ち出されたため、人が足りていないが、求人が出せない状況である。看護師に関してはリクルートを頑張った影響もあり採用が増えている。栄養科、看護師、医師と増えているがリハビリ関係は頑張っているけれども肩身が狭い状況。

→当校の場合は募集はしているが、なかなか応募がない。

→看護学科は常時不足しているが、臨床も看護師が不足して人員募集で苦勞されている状況。教員になるには5年の臨床経験が必要だが、臨床ではちょうど一人前の看護師としてこれから認定、専門、特定行為等、ある程度の期間の中で研修を受けて自分達のやりたいところに力を発揮したい時期。教員になってほしい時期は、現場で一番やりがいをもってやっている時期となるので、なかなか採用が難しい。また、教員に関する応募以前に、問合せ自体が無い状況でもある。今年卒業生を非常勤講師として派遣いただいたので、経験をつみながら教員にも興味を持ってくれる人が増えてくれることを望む。

【委員】人事については一定基準を設けておられると思うが、比較的短期間で役職が代わられているように思う。役職には責任感を持ってその任務を全うする必要があると思う。

基準3 教育活動

目標の設定 教育の方法・評価等 成績評価・単位認定等

資格・免許の取得の指導体制 教員・教員組織

教育目標や育成人材像は各業界からの要望等により人材ニーズを把握し、学科の教育機関で達成可能なレベルとしている。カリキュラムは教育課程編成委員会での外部委員からの意見を取り入れ、カリキュラムの編成に反映させている。教科ごとのシラバスも作成されており事前に生徒に配付し、初回講義において達成目標を説明している。学修成果の低い生徒に対しては、個別の学習指導と学習方法の再確認ができる働きかけを積極的に行っている。

教員については、指導力育成や必要な知識・技能を修得するための研修等を計画的に受講している。

成績評価・単位認定等は、明確に定められており、生徒に周知徹底されている。生徒のアンケートを基にした授業評価について、特に外部講師へのフィードバックが課題となっている。

学校関係者評価委員会の意見・提言

【委員】 p.12～p.13の目標の設定、教育方法について学校側の方向性は間違っていないと思うが、学校をドロップアウトする生徒の考えと学校の考えが空中戦になってしまう現状を目の当たりにしている。例えば目標というのも直面化して自己洞察して、内省していかないと人は育たないと思うが、まず直面化ができていない、自己洞察もできていないのが現状。こちらの意図がなかなか伝わらず、学校側は一生懸命アドバイスをするがわかってくれないというすれ違いが生じてしまい、卒業してもらっただけの関わりになってしまう。学校は本来、社会人としての教育的な部分もあると思うので、本人が書いた目標設定から気付いていかないと就職してからもすぐ辞めてしまう生徒が圧倒的に多いと感じている。学校では生徒に目標を可視化できるように、例えばシートに書く等、何かされているか？

→面談を通していろいろ話しているが、どうしても自分自身で納得できる答えが出ないというのが現状。先生が言われたように、紙面上に残して自分自身の目標を明確にしていく方法を今後考えていかなければいけないと思っている。学科によってクラスによっては年度初めに自分自身の目標、1年の目標を立てているクラスもあると思うが、全学科で統一してできるかというとなかなかそこまでは出来ていないのが現状である。

【委員】保護者が入ってくるとさらに複雑になることもあり、本人が可視化できる目標があればいいかなと感じている。

→もともと看護学科に入ってくる生徒（他校を含む）にリストカット歴がある、ないしは心療内科に受診歴がある生徒が一定数いる。その為、半袖の実習着の下にアンダーウェアを着ている生徒もいる。メンタルの問題を抱えた状態で、保護者と本人の意思疎通もうまくいかず、トラブルになることもある。学校としては、この生徒にとっては辞める方がむしろこれから生きていくには楽な生き方があるんじゃないかと思っても、保護者との関係がうまくいっていないと、その道を本人が選べない時はかなり苦しい。

全体としては入学して看護師を目指してきたのであれば、入学時からポートフォリオをきちんとしながら、それを伝えながら面談を進めていく方法を取っていかなければという投げかけをしている状況。3年間で看護師国家試験に合格する、全員卒業、全員合格という目標を持っているから、各年度でどこまで、クラス目標を受けてそれに合わせて自分はどうするかということを考えさせてはいるが、それを使ってどう指導していくかというのは少し不明確なところがあると思う。毎年全員個別面談をするので、そういった段階の時に使えるような明確にしたものを整理させた方がいいかなと感じている。

【委員】就職してからも、目標設定で上司と面談をして、それが1年間どうだったかというのを振り返りながらどんどんステップアップしてくるというのを就職してからもしているので、生徒のうちからそういうことを癖づけていくというのもいいかと思う。実際我々も就職してから行っているの、自分にどこが足りないのかというのをちゃんと可視化できる部分においては先程言われていたことはいいことだと思う。

【事務局】病院に来る方は、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・看護師の目標は失っているか？それともまだ持っているかお聞きしたい。

【委員】ほとんど辞める方はいない。やはり心の底にはやりたいという気持ちがある。学校側は違う人生もあると言いたいけども、弁護士を通して取り消されることもある。そのため全部最初に可視化して、前向きにやっ払いこうと伝えている。入院して何とか卒業しても国家試験は受けない方や転科する方もいる。

【事務局】退学した生徒ではなく、学校に籍を置いているということですね。入職してから17年間、退学している生徒には全員会っているが、皆とにかく希望をなくしている。長い時は2時間ぐらい説得するが、応じなくて辞めてしまうが、在学中だからですね。わかりました。

【委員】支援のやり方によっては繋がるのではと、でも多感な時期なので意見を述べさせていただいた。

【事務局】学校の目標としては先程6つの目標があったが、生徒に目標をというのであれば、個人個人の目標というものを教職員がもって生徒に接すると、生徒に対してもその目標について意識化できるかと思う。それが足りないとどうしても生徒にばかり求めてしまって、教員はどうなのかということもあってくると思う。そういったところも含めて検討していく必要があると感じる。

【委員】目標もサンプルがないと立てられないので、選択式にして、その中から選んでいってと詰めていって作るパターンが一番いいかと思う。例えばホームページに目標や卒業生のコメントがたくさん載っているとイメージがついていいのではないかと思う。

【委員】昨年も外部講師へのフィードバックが課題に挙がっていたが、今年も同様に挙がっている。この課題に関して、昨年から今年の期間で何か進展があったのか気になった。

→この期間で進展はないため、引き続き今後の検討課題としていく。

【委員】臨床現場の外部講師からより実践に近い教育の機会が増える事は良い事だと思う。授業評価について生徒アンケートの実施と教員（外部講師も含め）へのフィードバックは大切だと思う。しかし、生徒の意見ばかりでなく、客観的な意見も必要ではないか？授業参観や公開授業などは行われていないのでしょうか？

→生徒からのアンケートの内容が反映されていない講義が存在するため、改善の必要性を感じている。現在、授業参観や公開授業などの客観的評価は行われていない。今後、これらを導入できるように検討したい。

基準4 学修成果

就職率 資格・免許の取得率

令和6年度の求人数は13,787人と堅調に推移した。就職内定率に関しても堅調に推移しており、国家試験合格者のうち、就職希望者の医療・福祉機関等への就職率は100%である。令和6年度の学内就職ガイダンスについては、120件を超える病院・施設等が参加している。国家試験合格率については、作業療法学科のみ全国平均を上回っており、理学療法学科、言語聴覚療法学科および看護学科は全国平均を下回る結果であった。生徒数の減少、学力の低下が目立つ中、各学科とも国家試験全員合格に向け、更なる努力が必要である。

学校関係者評価委員会の意見・提言

【事務局】 先程、各科から国家試験の結果報告があったが、私からみると先生方皆さん頑張っておられると思う。

【委員】 看護学科はジャンプアップされていますね。

→不合格者の分析をしていった時に、最終的にはいかに生徒のお尻に火をつけるか、自分がやらないと何とかならないんだというところに持って行けたか、行けなかったかというのが一番かと思う。元々ずっと合格率90%の壁を越えられずにいた。昨年は特に逃げってしまう生徒が多く、強化クラスになっても指名されているが来ない、家の方が集中できるからという理由で帰ってしまうから強化できない。家が落ち着くのは自分の知らないことが周りで飛び交うから、だから不安になる。ということは、自分は遅れているという自覚を持って、もっと頑張ってもらいたいと思うが、そうはいかないということが多かった。

今年度は年が明ける前の12月の段階でお尻に火がついた。強化クラスになり、一部逃げってしまう生徒も最初はいたが、クラスに入って先生達からアドバイスを受けて自分で考えて、定期的にする模擬試験で成績が上がった。すると逃げていた生徒も慌てて強化クラスに戻ってきた。その結果、皆が必死になり合格率が上がることになった。いかにお尻に火をつける方法があるか、そこに生徒が乗ってくれるかどうか、生徒の気持ちを揺さぶる手段を教員が身に付けていってほしいと思う。あとは、1年生の時の解剖学・基礎看護学が全部「可」という生徒が昨年は軒並み落ちていた。その為、土台になるところの強化をはかるため、1年生から小テストを開始するという形で今年も対策をとった。

【事務局】 安定的に作業療法学科は合格率がいいと思うが、何か秘策はあるか？

→実施しているのは一番下の層の生徒をどれだけ上げるかということ。最後2か月間は成績不良者に教員が1人ずつ付き、毎日口頭試問をしている。また、生徒同士で教え合う時間は必ず設けている。

【委員】 国家試験合格率については、全国平均を下回っているのが現状。療法士を目指す生徒にとって、養成校を選択する大きな指標となると思う。生徒数を増加させる為には、一番努力が必要が課題だと思う。

→国家試験の結果については非常に重要視している。入学生の偏差値が低下している為、原級留置や退学を減少させる取り組みと共に、学力を向上させ国家試験の合格率を高めるための仕組みが必要だと考えている。各学科は早期に対策を検討している。

【委員】 実習生を受け入れるにあたり、学校から詳しい成績表が送られてくる訳ではないが、生徒と話していると、どのくらいの学力なんだろうなというのは何となく想像がつく。また実習を4週間なり8週間なり過ごしていく上で、今勉強を頑張って国家試験に受かると、こういう仕事で皆から頼りにされて、給料がこのくらいもらえて等、まだあと1日何時間くらい勉強すれば受かるんじゃないかという話を、火を付けるようなことは臨床でもやらせてもらっている。今、本当にしておかないと伝えている。頑張っても成績があんまり伸びない生徒、頑張っても成績が伸びていない生徒と、いろんなパターンがあると思うが、そういったところは協力をさせていただきたいと思っている。それを見ているのも楽しい。国家試験に合格した連絡が来たり勉強会で会ったりすると、あっ受かったんだなど、僕らとしてもやりがいを感じる。

→そういったきっかけがあると生徒がやる気になって、長期実習から戻ってきた生徒の顔が変わっているのが一番よくわかる。そういう風に現場で指導していただけたらかなり学校としてもありがたい、助かっている。我々も常日頃から、意識して勉強するように伝えてはいるが、なかなかお尻に火をつけるのは難しい。今後の課題と思っている。

【委員】 臨床をみて、その人をどうにかしないといけないとなった時、自分の知識と周りから助けてもらうことしかないの、そこを肌身に感じてもらえたらと思っている。

基準5 生徒支援

就職等進路 中途退学への対応 生徒相談 生徒生活 保護者との連携 卒業生・在校生
生徒の進路支援については学科、担任において個別指導を行う体制をとり就職内定率も堅調に推移している。生徒相談に関しては、スクールカウンセラーが個別に相談に応じている。
生徒の経済的な支援は、分割納入制度や各種奨学金、法人独自の奨学金制度を創設しているが、今後は大規模災害や家計急変による相談・支援体制も整備していく必要がある。生徒の健康管理については、毎年健康診断を実施しており、予防措置等を図っている。保護者との連携は、電話連絡で日常的に行っているほか、必要に応じ三者面談を行っている。例年、保護者会を開催し学校の取組みと就職状況などを報告している。卒業生の社会的な活躍及び社会的評価については、実習先や就職先のお礼訪問、同窓会活動等を通して活動状況等を把握している。また、現場で活躍する卒業生を講師として招いて卒業生講演会を実施し、生徒の啓発にも努めている。

学校関係者評価委員会の意見・提言

【委員】学校に行きたくないとか、就業困難になる方はだいたい平均して生活リズムが乱れていて、学校よりアルバイトが優先という方が圧倒的に多い。実際、アルバイトの方がおもしろいので、夜ずっとしていたり、学校に行かずに頼まれたから行くなどの例がある。それでも専門職になりたいという意思があるので、学校ではアルバイトの管理等は難しいか？また、生活指導的なものはあるか、お聞きしたい。

→あります。アルバイトの届を出してもらうようになっている。アルバイトの状況を確認して、欠席が続いたり欠課が続いたりするようなことがあれば、担任から保護者の方に連絡を入れて、面談をしながら生徒とも話しながらバイトの数をちょっと減らそうかと、調整はしている。しかしなかなかその辺は伝わらないところもあるのが現状。

【委員】すばらしい取り組みだと思う。結構そこが一番大事な気がしている。まだ1年生、2年生は勉強のおもしろさまでまだたどり着けていない、実習に行ってもちょっとずついいなあと思うと思う。ちょうどその頃にアルバイトの世界に足を踏み入れておもしろさを感じる生徒がいると思うので、学校も把握できるものがあればいいと思った。

【事務局】決してアルバイトは悪いことではないが、確かに、今は休まれたら困ると期待されている。

【委員】もちろん、アルバイトはした方がいいと思う。ただ極端になっている。加減が難しい生徒が多いのでお聞きした。基本、真面目な生徒が多く、心も体もそちらにいつってしまうので、どこかで止めないと思ったところはあった。

【委員】中途退学について要因や傾向を分析されているという事であるが、まず職業に対して理解した上で入学されているのか、理解して療法士を目指して入学された生徒さんにはしっかりサポートして頂きたい。仕事内容を理解できない、魅力を感じる事ができない生徒さんは、他にその人に合う仕事が見つかるかもしれないので、早い段階で見極めることも大切だと思う。

→目的が明確な生徒に対しては、保護者や出身校と連携しながら支援を行っている。職業理解が不十分な状態で入学している生徒も存在するため、面談を重ねつつ進退の方針を決定している。

基準6 教育環境

施設・設備等 学外実習 防災・安全管理

施設・設備等については、常に使用状況等の確認を行っており、使用不能（不良）の場合に対応するため、計画的に予算化し、修繕等を実施している。学外実習については、カリキュラム上明確に位置付けられているとともに、成績評価の基準を明確に定め、実習指導者との連携体制のもと、評価を行っている。また、臨床実習指導者会議や担任教員による計画的な実習地訪問を実施し、関係機関との連携を常に図っている。（令和6年度の臨床実習指導者会議は、オンラインで開催した。）看護学科は、臨地実習指導者会議を行うとともに、各実習において領域担当教員および実習指導教員が連携し現場での指導を随時行っている。なお、防災・安全管理については、消防計画に基づき定期的な消防訓練を実施するとともに警察等と連携しながら、防犯対策を実施している。

学校関係者評価委員会の意見・提言

【事務局】 本校も17年経つため、校舎等、いろんな設備がかなり老朽化はしている。毎年計画的に補充はしているがなかなか至らない面もあるかと思う。

【委員】 数年前から実習に関する宿舎の価格高騰を受けて、実習に来る生徒が、家が近く通える生徒になっていると伺っている。僕達の世代で、学生時代だいたい20年前ぐらいは自分の希望するようなステージや、少しお金はかかるけど、そこに宿舎を借りて行っていた。今、病院に来る生徒、例えば極端な話、小児に行きたいけど、ステージ、方向性、将来像が違ってくるということが生じている。そういったところで指導者としてどういう風に伝えようか悩むところがある。それで今、学校で臨床現場の生徒を受け入れることに対して、家が近い等の理由で、自分の行きたいところと違ってくるに実習することにあたっては、トラブル等は起きてはいないですか？皆、平和に無事に終わっていく感じでしょうか？

→理学療法学科の現状でいくと、今のところは自分が思っているところと違ったということは、ほぼほぼない。恐らく分野が作業や言語とは違い、整形と脳卒中、そこに心リハと呼吸というところが今、参入してきていて、行って初めて初めてみましたというところから純粋に学んできている生徒が多いかなと思う。既に自分はこの道に行きますと決まっている生徒の方がどちらかというと少なく、やはり部活動をして怪我をして整形が、という思いは何となくあるんですけど、勉強するにつれて心リハがおもしろくなりました。ちょうど枝分かれする時なので、長期実習等の少し長くなってくる実習に関しては、新しいものをみれてよかったですということの方が多かなと思う。決まっている生徒は逆に、そういうところに行かせて、もっと伸びてもらえるように配置をするようにしている。だいたい配置をする際は理学療法学科は全員で回して、回覧してどこがいいかなと検討するようにはしている。ただ、はっきりいってここ最近、宿舎の問題が出ているので、自己負担をご家庭の負担を極力減らしたところで、でも自分達の願いは叶う所にというところをいろいろ話し合いをしながら進めるようにしている。

【委員】 生徒も柔らかく考えているということですね。安心しました。

【委員】 他校の話ですが、生徒さんから実習前は電話で、どんなものを持ってきたらいいですか？どんな格好で来たらいいですか？と聞かれますが、最初はそれなりの格好で来るんですけど、長期実習で慣れてくるとあれ？そんな髪型してたかなとか、奇抜なTシャツで歩いていたりとかがあって。養成校の先生はちゃんと指導していますと言われるが、そのちゃんとというところがどこまでなのか、それを臨床の実習で指導していく、教えていくのが我々の立場かなと思っている。

少し言いにくいことだけど、そこは伝えないと、そこを見て、見られているあなたがせっかくだということをしているのに、患者さんから思われたりするし、他職種の職員から思われたりすると、もったいないよという言い方は常にしている。そういったところで普段、学校の先生方も生徒を見てて、そういった生活指導も多分しないといけないですよ、そういったところを少し、特に臨床と実習に出る時にはやり取りをすることが必要なかなと思っている。社会人として同じ医療職を目指してくれている生徒達に伝えないといけないことということで、僕のところに来た時には少し口酸っぱく言うかもしれませんが、ご了承ください。お願いします。

【事務局】 私の方からお尋ねしたい。今の高校生達から資料請求とかオープンキャンパスのお申し込みがあると、名前が男性なのか女性なのかどう読むのか？とわからない生徒が増えてきている。それとともに、いわゆるマイノリティが問題で高校も制服がいろいろ変わったり、そういう子達が入ってくる可能性もありますし、言えずに入学してきている子達もいるのかなと思う。いろいろ出てくる時期に来ているのかなと思うが、そういったところの受入れ状況というのは、先生方はどのように対応されているのか教えていただきたい。

【委員】うちは男性だろうと女性だろうと、ちゃんと患者さんに顔がわかるようにというのがあるので髪の手も伸ばそうが伸ばしませんが、顔を見せるようにしてくれればいいですっていうところと、爪等は清潔にしてくださいとマニュアルを作っているの、共通したものでするようにしている。そうでないとほかのスタッフも動揺すると思うし、ただ1つ問題が更衣室なんです。そこだけが解決していないというのが実情。

【委員】更衣室やトイレ、箱モノが全然手を付けられないというのがあって、そこはもうこれから考えていかないとはいえない。

【委員】うちは車いす用のトイレを使ってもらっている状況ですね。

【事務局】今からそういう個性としての部分とそういうマイノリティ的な部分で、女性でも短髪とか、男性でも長髪とか、あとはいろんな格好の問題とか外観の問題とか。例えばそういう子ですといった場合に、男性でもロン毛でも受け入れていただけるのかとか、今の時点ではどんな風に考えられているのか？

【委員】今はSDGsってもうそういうのは当たり前でやらないといけないとなっているので、どこもそうじゃないですかね。それがダメという方がたぶん良くなって、医療人としての身だしなみで僕は構わないと思う。

【委員】そのことについて1つ、他校と話し合ったことがあって、例えばマイノリティの問題だったり、精神の性格上の特色をもった生徒を受け入れる時に少しでもいいから事前に教えておいてほしいという話をした。受け入れはうちの病院的にも良いので、ただそれを個人の問題、個人情報だったりと言ってほしくないっていうことがあって、なかなかうまく言えないんですけど向こうの先生から言われて。そうなってくると、なかなか連携が取りにくいなと思う部分がある。生徒が許可をすればある程度のところはいいんでしょうけど、こちらの準備というか他のスタッフにも伝えておかないといけない部分もあったのでそういうのが少しこれから連携をしていかないとはいえないのかなと思う。

【委員】難しいですね。あまり伝えすぎるとそういう先入観でみてしまうというのもあるので、自分達もやはりその生徒さんに対して、その人達を評価して、どういう人かというところで自分達も関わり方を知っていくという部分も必要なんです。あまりそういう学校側からこういう人が来ますと言われたら、皆がそういう目でみたらそうになってしまう、というのも少し考えながら、これは昔から言われていることで難しいところですね。

基準7 生徒の募集と受入れ

生徒募集活動 入学選考 学納金

毎年、高等学校の進路指導主事等を対象とした学校説明会を開催し、学校の現状や国家試験対応、就職状況等の情報を提供している。学校案内用パンフレットを制作し、ホームページにも学校情報を掲載している。また、定期的に県内外の高等学校訪問を実施し、学校案内やイベント情報を進路指導担当の先生方に周知するとともに、進路ガイダンスへの参加、オープンキャンパスや入試情報の提供など生徒募集に向けた全学的な取組みを行っている。ここ数年、インターネットによる情報収集が増加してきていることから、ホームページのSEO対策に加えMEOを対策を講じ、Instagram やYouTube等SNSを活用した新たな広報活動に取り組んだ。またWEB出願を導入し、看護とリハの募集内容の大幅な見直しを行い、さらなる使い勝手の良さを追求する。

広報部として、各職種の仕事のやりがいや学校の良さについて広く啓発してはいるが、どれが功を奏するアイテムなのかは、正直難しい問題である。昨年は、内向きの広報である「在校生の満足度を上げる」取り組みに力を注ぐことを重要であるとしたが、やはり「ターゲットにどう見えるか」を主たる目標にすべきと課題が見えた。

学校関係者評価委員会の意見・提言

【委員】 生徒募集、少子化の中で大変かと思う。高等学校も熊本市内以外の高校はなかなか厳しい状況で、効果的な何かがありましたら、総括・課題・特記事項に書いてありますが、これというのが何かありましたら、教えていただけたらと思う。

→実際私も頭を悩ませているというのが第一印象で、時の流れと言いますか、その時の流行等にもかなり影響されやすいというのはあると思う。今、特に大学全入時代の状況になっており、熊本県内の専門学校も業種によってはかなり厳しい学校もあると思う。ではもうインターネットでこういった広告をあげれば、注目してきてくれるのかというと、そればかりではなく、日々感じているのは、学校で今やっていること、目玉になること、そういったことがより効果的にどう皆さんにお知らせできるかということが一番なんじゃないかなと思っている。もちろん、先生方には学内での満足度をあげていただくというのはもちろんだが、メリットとか、こういうところで学んでそれぞれの生業になることの良さというのを私がどれだけ皆さんにお伝えできるのかというのは一番の広報の役割かなと思っているので、今のところはちょっと負けている部分はあるけれども少しずつ変化していかなければいけないのかなと思っている。

あとは広報するアイテムをどうやっていくかというのは非常に難しいところがあると思う。私達がどんなに一生懸命宣伝しても今はもうグーグルという会社によって効果的に、必要な人に必要なCMを渡されてしまうので、やたらとお金をかけても効果的には届かない場合もあるので、そういったところが非常に悩ましい部分ではあるかなと思う。今後もAIのよい活用方法も含めて、効果的に行っていかなければならないかなと思う。熊本県は県全体が半導体に目を向けられているので、後は外国の方というところで、この業種につくことの良さがいかに伝えられるかということが、高校さんもそれぞれいいところがあると思いますので同じ悩みなところなのかなと思っている。

【事務局】 農業高校で卒業後に農業をする方はいるのか教えていただきたい。

【委員】 本校は卒業後、即就は2、3名ですが、県立農業大学校に2年行った後、4年制大学に行った後という生徒を入れれば15～6名ぐらいは農業に携わっている。また、勤務しながら兼業農家という生徒や関連産業に就く生徒もいる。

【事務局】 例えば専門学校の場合の合格率が先程出ていたが、合格率はやはり高校生の皆さんにとっては気になる部分なんではないか？

【委員】 意識の高い生徒もいますので、この合格率が高いから行こうかを選ぶ生徒もいるかと思う。

【委員】 昨年か一昨年に広報の話になった際、高校生の時点で話したらもう遅い、では中学生の時点からという話が上がったと記憶している。では今中学生に対して職業体験というか紹介みたいなものはあっているのかお聞きしたい。

→ある専門学校が近くの小学校や中学校に、高校訪問ではなく小・中学校訪問をされていて、総合教育やいろんな道徳の時間を活用して、職業体験を進められている。医療職やいろんな職業を生徒が体験できるような授業に関わっているところもある。

【委員】 今、理学・作業・言語・看護協会もそうですけど、ショッピングモール等でいろいろ〇〇の日等をやっている、年々、参加してくれる人は増えているという話は聞いている。なので、この言伝のネットワークがもう少し広がればいいなと思っている。我々も受けてくれる人が増えて、この職に就いてくれる人が多くなることに越したことはないので、若い人達が工業系だったり、そもそも人口が少なくなってきた時に、どうやって一般の方々にわかってもらうんだらうと、広報は難しいと感じている。

→職種の理解というところで、コロナの時代は特に家族の見舞いに行けない等で実際仕事が見れないというのが、目指す要因になれなかったというのがあると思う。結局なぜ理学療法ってなるかということ、自分がケガをして、みてもらって、治ってまた部活に戻れたという経験から、そういう仕事に就きたいという、自分が向いているかどうかはわからないけど、まずは医療系、リハビリというところのきっかけとしてまず、理学療法士が多いとは感じている。その職種の部分でいうと、作業療法士が一番説明が難しい。難しいけど4年かけて体だけじゃなく、精神科の疾患や子供の発達障害、高齢者の認知症とか様々な勉強ができるのはお得と思わない？と伝えてみたりしている。

【委員】 理学・作業・言語・看護かわらず、医療系を合同で実施しているところに来てもらって選べるようなパターンがあれば、選択肢も広がるかと思う。
→オープンキャンパスで年1回、4職種体験できる、仕事が見れるものを実施している。ただそれ以外の日程は1学科のみ、1職種しか見れないシステムになっている。他校では広く1日かけてオープンキャンパスを実施し全部回れるように、いろんなアイテムを準備されているところもあるので、うちの学校もその部分はちょっと弱い部分かなとは感じている。学校はここに来たい、その中で職種を選んでもらい、確保できていくといいかと思っている。中には4職種説明会以外の全6回のうち、すべての学科を体験して、自分はやっぱりこれと決める生徒もいる。

【委員】 そういった知恵は僕らがお聞きしたいくらい。
→広報の流れとしてはまずはホームページやInstagram等、外向きのテレビの出演やテレビCM、あとは高校訪問、ガイダンス、そこからオープンキャンパスにどれくらいの割合で案内ができるかということ、オープンキャンパスに来る数が増えれば増えるほど、受験生も増えてくると思う。その流れを構築していきたいと考えているけれども、社会人も含めて、いろんな形でいろんな年齢層の方に学校を見に来て、そして気に入ってもらってというところに繋げていきたいと思っている。

【委員】 TSMCだったりケアワーカーはフィリピンやミャンマーから来られている。その方達が実際英語が得意かということ、意外とそうでもない人もいて、患者さんも外国人の方が多くなっている現状で、現場では英語が話せるスタッフを募集している。例えばこの学校の特徴として英語が話せるセラピストを育成しますとなると、生徒さんだったりとか保護者の方にも意外と良いかなと思っている。

→私もそれは同感です。学校の中で4年かけて通常の英会話が話せるぐらいの何か付与できるものがメリットとしてあればもっと生徒も来るかなと思っている。ただ、そういった先生をどう雇うかは課題で、でもそういった機会というのはすごく学校の良さに繋がっていくのかなと思う。まずは職種を好きになってもらうことを目標にしないといけないのかなと思っているが、英会話もしくは中国語、ここがちょっとポイントかなとは思っている。

【委員】 外国の患者さんも増えてきて、翻訳機を利用して話してもらっているが、翻訳機とニュアンスが違うようで、聞き取れる人がいないとちゃんと対応ができないのが現状。いろいろなところで外国語を話せる人材が求められているので、この学校に外国語が強い生徒がいるようになったらすごくいいかなと思ったところでした。

【委員】 基準5でも書かせていただいたが、入学前の成績よりも療法士に関する理解度が十分備わっていれば、4年間のカリキュラムにも国家試験にも耐え抜く事ができると思う。選考基準の重要ポイントとして頂きたい。

【委員】 志願者数を増やすというのが一番の目標ですかね。卒業生のご子息が受験を迎える頃ですか？そうなってくると子供さん方がまた入学するとか。

→まだ少し早いですが、青照館の卒業生だといえるかもしれません。

【委員】 少しずつ声を掛けていけたらいいですね。

基準 8 財務

財務基盤 財務分析 単年度予算・中期計画 執行管理 監査 財務情報公開

財務状況に関しては、予算に対して適切な執行が行われている。しかしながら、入学者の減少や退学者などにより、年々収入が減少してきている。財務状況の改善への取組みとして、収入に関わる生徒募集に関しては、広報活動及びオープンキャンパスなどの内容の改善などに努めている。また、支出に関しては、経費支出状況の見直し、消耗品の購入方法の検討など、部署毎の節約への取り組みの積み重ねを励行している。情報公開に関しては、毎年度決算情報を学校ホームページにて公開しており、今後も継続して行っていく。

令和6年度は令和5年5月より新型コロナウイルス感染症の分類が変わったことに伴い、臨地実習や行事関連などは以前と同様の形で行うことができた。新型コロナウイルス感染症蔓延時の遠隔講義や学内実習なども一部活用し、教育現場の質の担保を図っている。

令和6年度の決算においては、開校から16年を経過しており、令和5年度に引き続き修繕維持に係る費用の増加があった。今後も増加が見込まれるため計画的な修繕維持及び入替えを行っていく。

学校関係者評価委員会の意見・提言

特に意見なし

基準9 法令等の遵守

関係法令、設置基準等の遵守 個人情報保護

学校評価 教育情報の公開

個人情報の管理は、システム上におけるセキュリティの強化を図っている。また、ホームページについては、オールリニューアルを控えており、セキュリティについて更なる強化を図りたい。

教職員が、人権研修会等へ積極的に参加して、入学試験における不適切質問等が無いよう努めるとともに、日ごろの教育活動においても人権意識をもって業務にあたっている。

学校内にハラスメント委員会を設け、生徒をはじめ、教職員の人権を守る取り組みを行っている。また、校内研修を実施し、コンプライアンスの徹底、学校としての社会的評価を高めるよう努力している。

安易なSNSやクラウドサービスの利用による個人情報の漏洩、ならびにハラスメント防止教育を充実させていく必要がある。

学校関係者評価委員会の意見・提言

特に意見なし

基準10 社会貢献

社会貢献・地域貢献 ボランティア活動

本校の教職員が直接高等学校への出前授業の実施や校内での学校見学や体験授業等のインターンシップについては可能な限り積極的に対応している。ボランティア部を含む生徒たちは、熊本城マラソン等のボランティア活動に積極的に参加している。以前は、地域や実習施設、隣接する高齢者福祉施設でのイベントにボランティアとして積極的に参加していたが、新型コロナウイルス感染症の流行以降、いまだ地域との交流はできていない。一心祭（学園祭）は生徒の家族や地域住民の参加を促進し、地域との交流が少しずつ以前の状況に戻りつつある。生徒同士の交流を促すだけでなく、保護者や地域住民、関連団体などの外部の人々との交流の場でもある。また、企業関係者や入学を検討している高校生に対するアピールの機会でもあるため、職業教育に特化したプログラムの企画が求められる。

学校関係者評価委員会の意見・提言

特に意見なし

6 総括

先生方の活発な意見で良い点、悪い点、いろいろと課題が判明した。課題点については次年度からより具体的な取り組みの改善をはかるために、活用してまいりたい。最終的には志願者数を増やすことが一番の目標、具体的な方法を模索して努力していきたい。